善福寺川流域治水フォーラム（令和８年 11 月１日）

皆さん、こんにちは。杉並区長の岸本聡子です。
本日は、第１回善福寺川流域治水フォーラムにご参加いただき、ありがとうございます。
今日、このフォーラムを開催するにあたり、私が最も大切にしたいことを、最初にお話ししたいと思います。

善福寺川の流域には、これまで浸水被害を経験し、大雨のたびに不安を感じている方々がいます。一方で、善福寺川の豊かな自然やみどり、景観、生きものたちの環境を大切にし、次の世代に引き継いでいきたいと考えている方々もいます。また、東京都が進める善福寺川上流地下調節池について、その必要性や効果、費用、工事による地域への影響について、もっと詳しく知りたい、説明を聞きたいという声もあります。私は、こうした一つひとつの声の背景には、それぞれに大切な経験や、切実な不安、そして善福寺川への思いがあると考えています。

今日ご参加いただいている皆さん、そして、参加を希望しながら今日はこの会場に入れなかった皆さん、多くの方々も、善福寺川の課題について、それぞれの立場から真剣に考えておられます。一方で、お互いが何を心配し、何を大切にしているのかについては、まだ十分に共有できていないのではないでしょうか。
だからこそ、まずは同じ情報を共有し、善福寺川流域の安全と環境について考える土台をつくる。そこから回を重ね、共通理解を少しずつ深めていく。私は、このフォーラムをそのための継続的な場として育てていきたいと考えています。

そしてもう一つ、大切にしたいことがあります。それは「情報」です。行政には、水害のリスクや河川・下水道、地下調節池、雨水の貯留・浸透、グリーンインフラなどについて、客観的で正確な技術的情報を蓄積し、できるだけ分かりやすく皆さんにお伝えしていく責任があります。しかし、行政が「これが正しい情報です」と示して終わるものではないと私は考えています。同じ情報を見ても、そこから何を考えるのか、何を重要だと考えるのかについては、人それぞれ違います。だからこそ、情報を共有し、その情報をもとに考え、対話を続けることが必要です。

東京都による善福寺川上流地下調節池事業は動き始めています。一方、長期にわたる事業だからこそ、地域の皆さんが抱える工事への不安や負担をできる限り小さくすること、そして事業の効果や費用などについて、皆さんが求める情報や説明が継続して得られることが大切です。区としても東京都と連携しながら、その役割を果たしていきます。

今日、聞きたいことのすべてに答えが出るとは思っていません。むしろ今日を始まりにしたいと思っています。「このことについて、もっとデータを見たい」「東京都からここを説明してほしい」「この点を専門家に聞いてみたい」。ぜひ、そういった具体的な声はアンケートのロゴフォームの自由記述欄にお書きください。次回以降のフォーラムにもつなげ、できる限り情報を共有していきたいと考えています。

そして、杉並区自身にも重要な役割があります。大雨のとき、実際にどこで水があふれたのか。どこに水が集まり、内水氾濫が起きたのか。雨の降り方と地域の状況を継続的に集め、分析していく。そこに、区民の皆さんが地域で経験されたことや、事業者、専門家の知見も重ねていく。そして、その情報を、例えばどこに雨水を貯め、浸透させる取組を行うことが効果的なのか、雨庭のような一つひとつは小さな取組が流域全体に広がることで、どのような効果が生まれるのか、といった具体的な実践につなげていく。私は、これが基礎自治体で

ある杉並区だからこそできる流域治水だと考えています。

河川や下水道、地下調節池などの大規模な治水対策と、道路、公園、学校、住宅、駐車場や建物と建物の間などで雨水を貯め、浸透させる取組、そしてグリーンインフラ。それぞれを対立させるのではなく、多角的に組み合わせ、流域全体で水害リスクを減らしていく。それが杉並区の目指す流域治水です。

今、目の前にあるすべての問題について、今日ここにいる全員が同じ考えになることは難しいでしょう。私は、それを今日のゴールにする必要もないと思っています。むしろ考えたいのは、10 年後、20 年後、50 年後の善福寺川流域を、私たちはどんな場所にしていたいのかということです。水害に対する安全性が高まり、一方で善福寺川の豊かな自然やみどり、生物多様性が守られ、さらに豊かになっている。そして、子どもたちが川に親しみ、この環境を次の世代へと引き継いでいく。私は、安全と豊かな自然は両立できるし、両立させなければならないと考えています。

本日の善福寺川流域治水フォーラムを皆さんと一緒に育てていきたいと思っています。
今日のテーマは、「善福寺川流域の現状を知り、安全と環境を共に考える」です。第 1 回となる今日が、その長い取組の第一歩になることを心から願っています。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。